

いしかわ吃音のつどい

日時: 2018年10月14日（日）13:30～16:30

場所: 野々市市交遊舎ホール



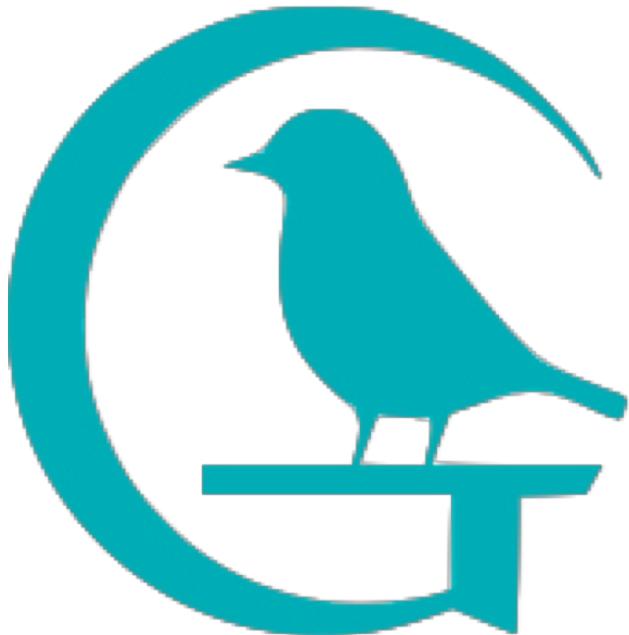
吃音の基礎知識と 対応の提案

スライド資料が、お
手持ちのスマホでご
覧いただけます。

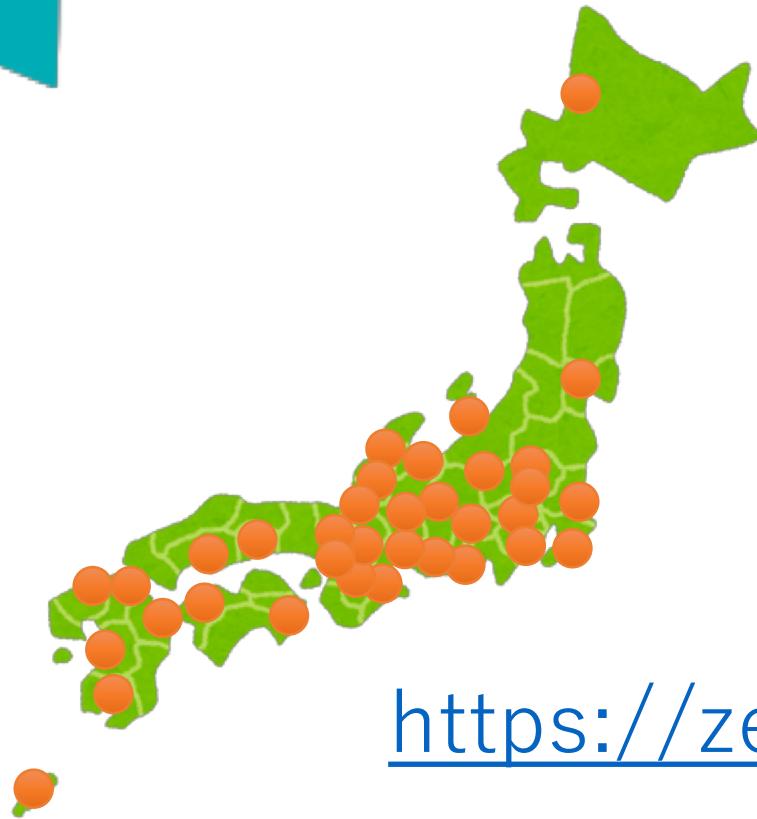
石川言友会

金沢大学人間社会研究域学校教育系

小林 宏明



NPO法人
全國言友会
連絡協議会



<https://zengenren.org/>



October 22, 2017
isad.isastutter.org



大学教員（金沢大学）



石川言友会

いしかわの吃音(ことばがどもる)がある人のセルフヘルプグループ

[ホーム](#) [石川言友会とは](#) [活動](#) [イベント情報](#) [会員用情報](#) [お問い合わせ](#) [会員専用ページ](#)

Q A

ホーム

トップページ

(例会案内)

» 平成29年度総会案内
2017年4月1日

» 2017年3月の例会案内
2017年3月19日

» 2017年2月の例会案内
2017年2月18日

» 2017年1月の例会案内
2017年1月16日

» 12月の例会案内
2016年12月18日



言友会は吃音問題の解決を目指すセルフヘルプグループです

Q.吃音とは?

A.言葉が「吃る(どもる)」ことを言います。

話そうとすると言葉がなめらかに出てこなかったり、言葉が詰まってしまうことがあります。話すことに対する失敗経験を多く経験することから、話すことに対する恐怖心を持ったり、話を避けようとすることがしばしば見られます。

@iShikawaOPEさんよりツイート

石川言友会
@iShikawaOPE
2月26日㈯は3月の例会を行います。場所は松ヶ林総合施設で、13時00分からです。皆様のご参加をお待ちしております。

石川言友会会員

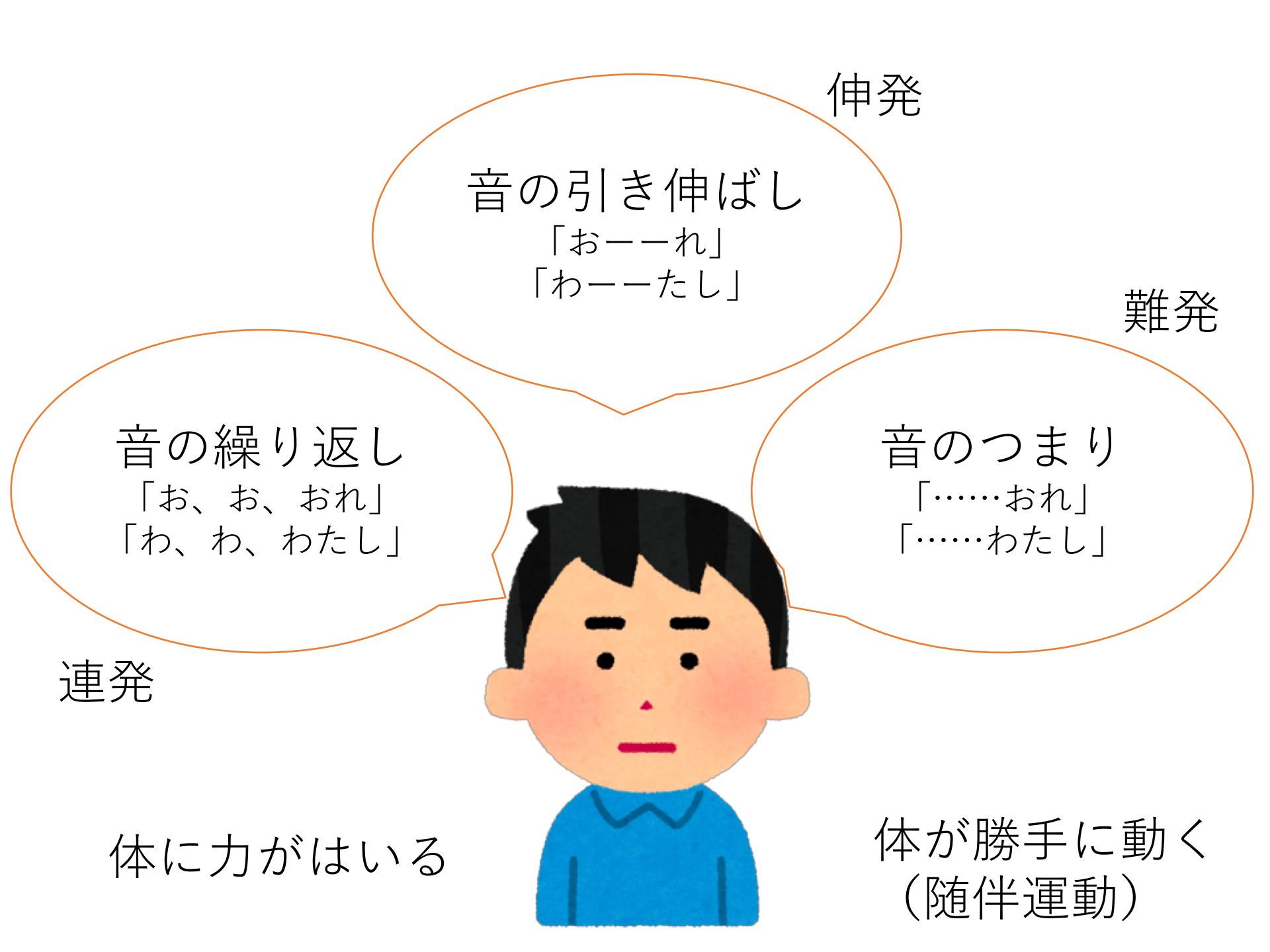
お話の内容

- 吃音の基礎知識
- いただいたご質問から
 - 吃音の原因は?
 - 改善方法の効果と限界
 - 社会的な支援の必要性
- 吃音への対処の提案

吃音の基礎知識



「きつ音」って何？

A simple illustration of a young boy with short black hair, wearing a blue collared shirt. A large orange speech bubble surrounds his head, containing text about speech sounds.

伸発

音の引き伸ばし
「おーーれ」
「わーーたし」

難発

音の繰り返し
「お、お、おれ」
「わ、わ、わたし」

連発

体に力がはいる

音のつまり
「……おれ」
「……わたし」

体が勝手に動く
(随伴運動)

Loss of Control
(制御不能)

体の不自由
体の問題

心理的な問題

話し言葉の問題
(「どもる」話し方)

周囲の人の反応



思うよう
に話せないイ
ライラ

予期不安

→ 言い換え

恥ずかしい、
だめなこと

自己効力感
、自尊感情
の低下



どの位
いるの？





幼児



小学生

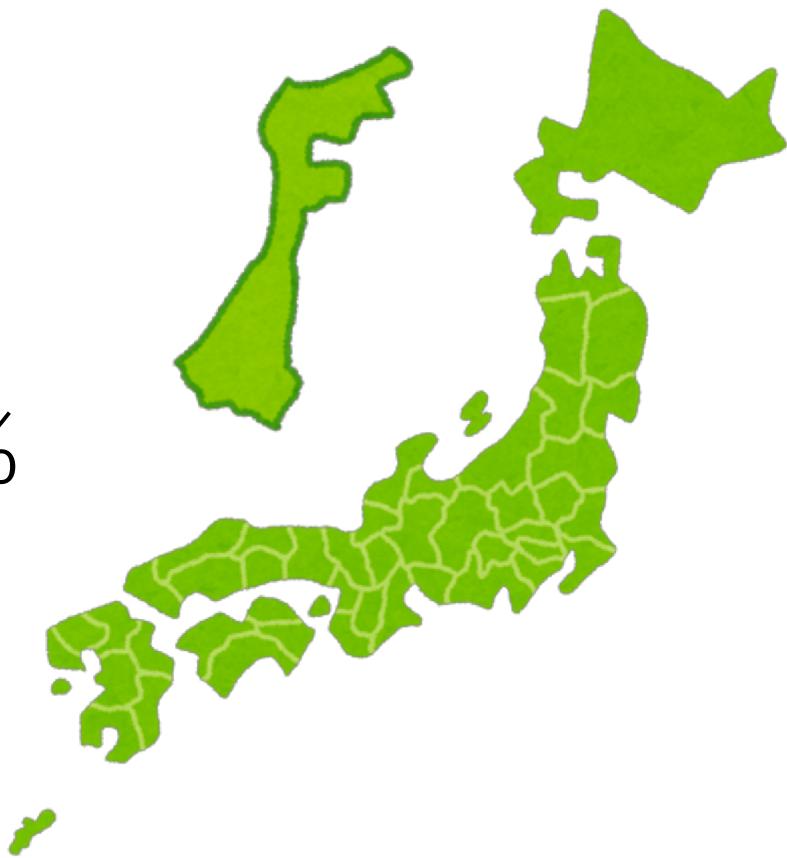


成人

発吃
(どもりはじめる)

約5%

約1%



吃音の予後



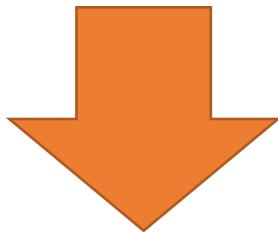
学齢期以降の調査はあまりされていない

印象としては、年齢が高くなると吃音の困難は軽減する場合が多いように感じる

吃音の原因は？



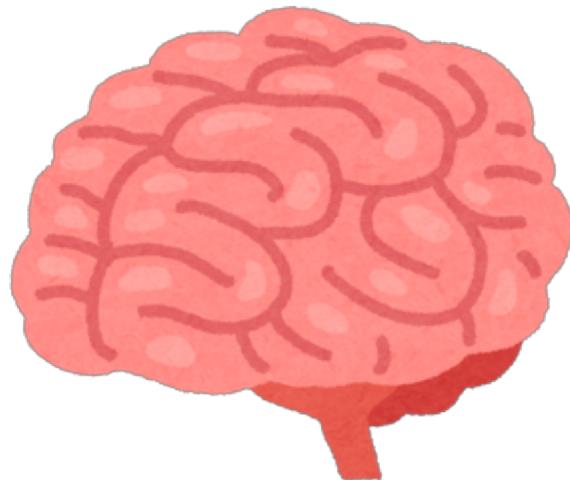
さまざまな研究



まだ、わかっていない

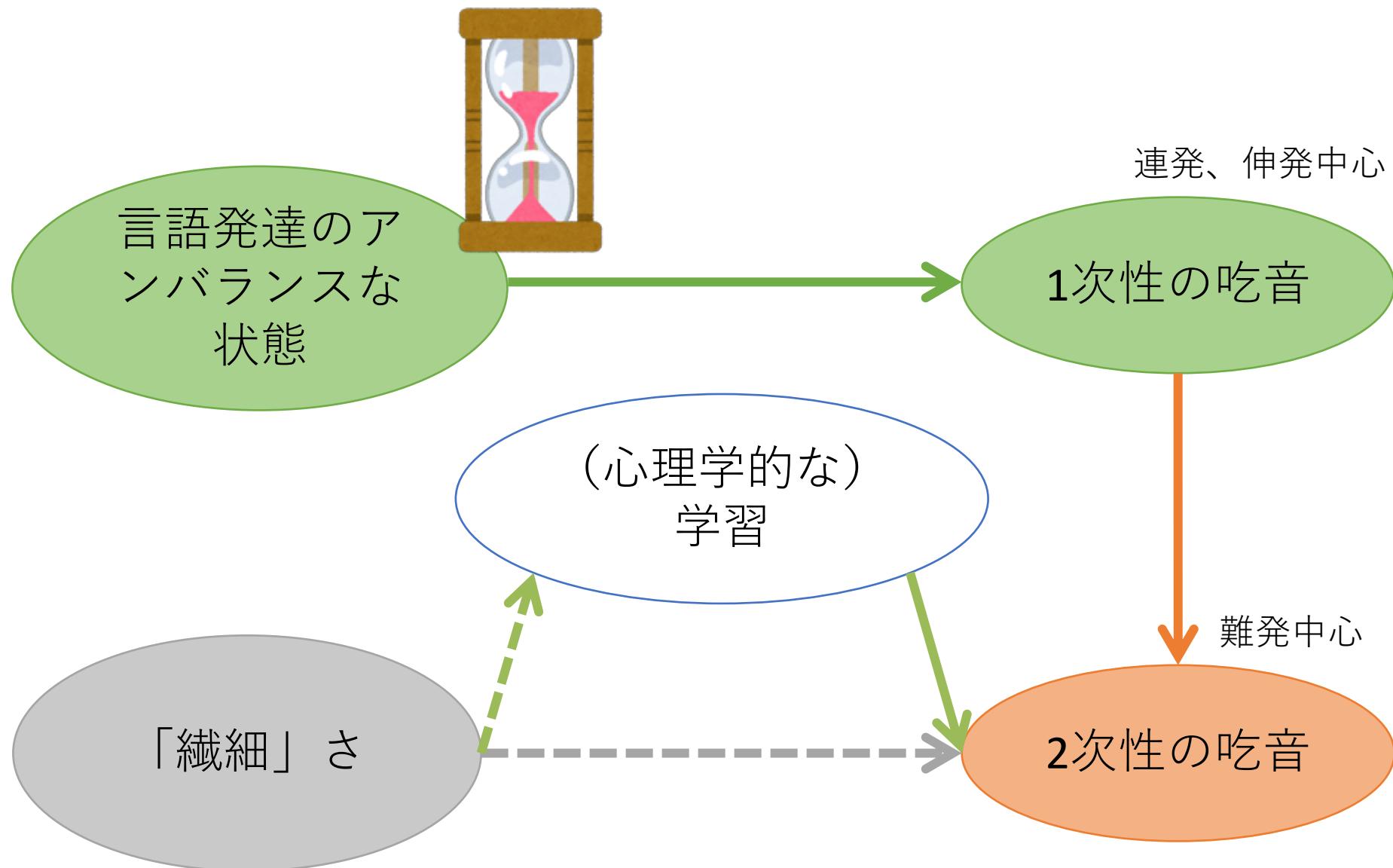
現在有力視されている原因論

多要因理論



2段階モデル (An Integration of Perspective on Stuttering)

(Guitar, 2014, p102, Fig. 6.5.) 一部改変



改善方法の効果と限界

臨床実践の動向

吃音臨床の
パラダイム
シフト

吃音の言語症状の消失・軽減



吃音のために生じる困難の
解消・緩和

困難

- 活動の制限
- 参加の制約
- QOLの低下

感情・態度

- 意識、とらえ方
- 不安、回避
- 自己効力感

環境

- 吃音への理解
- 吃音への対応
- 偏見、からかい

様々な臨床技法の開発



環境調整法

流暢性形成法



流暢性形成法

環境調整法
吃音の学習

吃音変容法



統合的アプローチ

DAF、FAF、
メトロノーム、VR、
マインドフルネス...

認知行動療法

吃音の臨床技法



「標準治療」が確立されていない

- 信頼できる専門家の意見
- 言友会などのクチコミ情報

(ただし、他の人に有効な方法が自分にも有効とは限らない)

社会的な支援の必要性

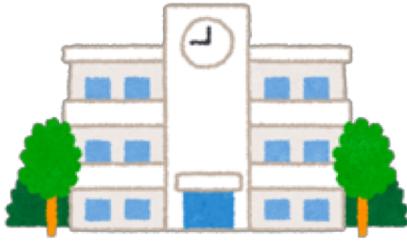


どうしてどもるの？



どうしてどもって
はいけないの？

多様な支援の取組



吃音理解教育

- 吃音の啓発
- からかいなどへの仲裁

合理的配慮

- 方法の変更
- 評価の変更
- 課題の変更



障害者福祉

- 手帳の交付
- 就労支援

当事者同士のつどい場

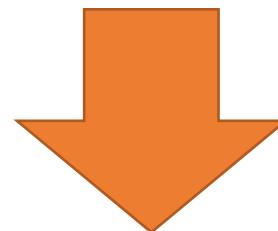
- 中高生のつどい
- セルフヘルプ・グループ



吃音への対処の提案



現在のところ、吃音を
なくす治療法は確立さ
れていない



しかし...



様々な方法を組み合わ
せることで、軽くする
ことは可能

楽に、楽
しくお話
できる雰
囲気作り

不安や悩
みを一緒
に考える



吃音を正
しく理解
する

安心して話
せる環境
づくり

からかい
を許さな
い学校づ
くり



楽に話す
方法

吃音のと
らえ方を
変える

吃音の不
安を軽く
する方法

「吃音にとらわれず
ぎないことが大切」
と思います。

- 吃音以外の自分のよさを追究する
- 吃音があっても楽しく人生を謳歌
- 吃音に人生をのっとられないよう
にする



「吃音は治った」とは？



吃音の言語症状、心理症状がなくなること
吃音があっても「困らない」社会になること

どうして、治さないと
いけないの？

参考文献

- Guitar, B. (2014). *Stuttering*. Baltimore, Lippincott Williams & Wilkins.
- 小林宏明, 川合紀宗 (2013) 特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援. 学苑社.
- 小林宏明. (2013) 学齢期吃音の指導・支援 改訂第2版: 学苑社.
- 酒井奈緒美, 菊池良和, 小林宏明, 原由紀, 宮本昌子, 須藤大輔, 森浩一 (2018) 3歳児および3歳6か月児健診における吃音の有症率. 音声言語医学, 59, 61.
- 菊池良和 (2015) エビデンスに基づいた吃音支援. 心身医学, 55, 1104-1110.
- Sonnevile-Koedoot, Caroline de, Elly Stolk, Toni Rietveld, and Marie-Christine Franken. (2015) Direct Versus Indirect Treatment for Preschool Children Who Stutter: The Restart Randomized Trial. PLOS ONE 10, 1-17.
- 坂田善政, 吉野真理子 (2017) 環境調整法と流暢性形成法を組み合わせた介入の後に リッカム・プログラムの導入を試みた幼児吃音の1例. コミュニケーション障害学 34, 1-10.
- 坂田善政 (2015) 成人吃音の臨床. 言語聴覚研究, 12, 3-10.
- 坂田善政 (2012) 成人吃音例に対する直接法. 音声言語医学, 53, 281-287.
- 川合紀宗 (2010) 吃音に対する認知行動療法的アプローチ. 音声言語医学 51, 269-73.
- 都築澄夫 (2015) 間接法による吃音訓練 自然で無意識な発話への遡及的アプローチ－環境調整法・年表方式のメンタルリハーサル法. 三輪書店.
- 酒井奈緒美, 森浩一, 小澤恵美, 餅田亜希子 (2006) 耳掛け型メトロノームを用いた吃音訓練－成人吃音者を対象に－. 音声言語医学 47, 16-24.
- Beilby, J. M., Byrnes, M. L., & Yaruss, J. S. (2012). Acceptance and Commitment Therapy for adults who stutter: psychosocial adjustment and speech fluency. Journal of Fluency Disorders, 37, 289-299.
- Brundage, S. B., Brinton, J. M., & Hancock, A. B. (2016). Utility of virtual reality environments to examine physiological reactivity and subjective distress in adults who stutter . Journal of Fluency Disorders, 50, 85-95.
- Blood, G. W., Boyle, M. P., Blood, I. M., & Nalesnik, G. R. (2010) Bullying in children who stutter: speech-language pathologists' perceptions and intervention strategies. Journal of Fluency Disorders, 35, 92-109.

PCサイトを表示する



サイト内検索

検索

吃音ポータル サイト

金沢大学人間社会研究域学校教育系小林宏明のホームページ

HOME



きつ音にこまる
みなさん

成年の方



保護者の方

担任の先生方

ご清聴、ありがとうございました

ご質問・ご意見は
kobah@kitsuon-portal.jp まで

さらに詳しい情報は
<http://www.kitsuon-portal.jp/>

吃音ポータルサイト

検索



イラスト 「いらすとや」 <http://www.irasutoya.com/>